

升。

十五、まんかんさん。とうこへいく。ちよびいく。

はーまん。はーまつた。親の云ふ事きんかんさん。

十六、五厘の。どんぐり目。

十七、おかん。こうり。つめたひ。こうり。こた

つへ。あたつて。ぬーくひ。こうり。

十八、正一いなり。大明神。お稻荷さんの事なら。

どこまでも下略(初午の際はたを持ち歌ふ)

十九、こうもり。来い。あんどに。かくれて。

傘きてこい。

二十、お月様いくつ十三一つ。そりや。まだ若い

な。こんど。京へ。のぼつて。まもりの。せい

でおまんを。買つて。其おまん。どうした。(子

供の名)花ちゃん。たべて。しもた(これは

まだ種々あり)。

二十一、天神橋は。長いな。おちたら。こはいな。

二十二、あほに。ほがない。船に帆がある。ぱつ

ちに。底ない。船に底ある。

二十三、めくらーの。通り道。子供が。ゐてたら

のいてんか。

二十四、とつてん。かつちん。鍛冶屋の子。ぬく

く。ポツポテ。芋屋の子。

(つゝ)

## 躰方の準的

(神戸市保育會に於ける講習の一節)

文學士 檜崎淺太郎

編者言ふ。神戸市保育會にては昨年四月より毎月一回乃至二回、京都より檜崎文學士を聘して心理學及教育學上の講義を

乞ひ、聽講者に最深大なる興味と利益とを興へられつゝあり此の『躰方の準的』は其の講義中の一部を神戸幼稚園保母前出

元枝氏の筆記により更に檜崎文學士の校閲を経、特に本誌の爲に寄稿せられしものにして、此の何人にも重要有益なる、講義を直接聽講者のみの利益に止めず、廣く熱心なる本誌讀者諸君に頒たれんとする神戸保育會の特別な好意によるものなり。即ち誌して掲載を承諾せられし檜崎文學士、筆記者の勞及び、神戸保育會の好意を深謝するものなり。

## 一、教育上最重要の問題

學校教育又は保育の上にて於て道德教育程重要にして最も困難なる問題は他にはありませぬ。多くの教育者並に父兄の方々が子女の教育に關して考慮を費して居らるるのは主として此問題である。

殊に我國今日の狀態は二千數百年來涵養し發達し來りたる國民思想が教育の普及と歐米文明の接觸とに依り少しく動搖を萌したるやの懸念があり之に對し識者は大いに考慮し研究して居る時代である。夫れ故に此問題は獨り教育者のみが解決をしなければならぬ問題でなくして實に日本の全國民が擧つて研究しなければならぬ最重要の問題であります。而して私が茲に其話しを致しますのも此

問題の解決ではなく解決に近づく可き正當なる考方と大切な材料を差し上げこれを手引きにして本問題を絶えず御考を願ひたいのであります。

## 二、德育に關する從來の研究

教育に關する研究中最も進歩の遅いのは實に此方面である其遅々たることは我國も外國も同様であります。我國西洋とも訓練上の方針は何によりて定めたと申しますと先哲の意見と日常の經驗から割り出したものである。我國で訓練の仕方から誠に細かく考へて後進者に示したるは貝原益軒であります。先生の訓練の基礎は支那の儒教と先生自身の經驗とから來て居る例へば、

- (一) 小兒の悪しくなるは父母、乳母、侍者が人の教への道を知らずして其の子の本性を害ふ故なり。
- (二) 小兒の時より暇なく艱苦に慣れしむ可し、人幼き時艱難に慣るれば年長じて艱苦に耐へ易し。
- (三) 小兒の遊びを好むは常の情なり道に害なきわ

ざならば強て抑へかがめて其氣を屈せしむ可らず。

(四)小兒十歳以内は賢愚知不肖未だ定らず十歳より十五歳に到る間に漸く分れ二十歳に到りて定まる故に十歳より内に早く教へ戒む可し。

(五)小兒を安からしむるには三分の饑と寒とを帶ぶ可し天氣好き時は折り折り外に出し風日に當らしむ可し斯の如くすれば肌堅く血氣強くなり風寒に感せず風日に當らざれば肌脆くして風寒に感しやすく煩多し。

(六)七歳より前は早く寝ね晏く起き食するに時を定めず大概其心に任す可し禮法を以て一一責め難し。

我國の益軒と時代を同ふして出ました英國のロツクの本を見ますると其中には訓練に關する貴き説を澤山含んでゐます。是れは氏が家庭教師をして居ました多年の經驗の結果から來たもので皆一一根據ある説で今日の訓練の意見と大差がない程進

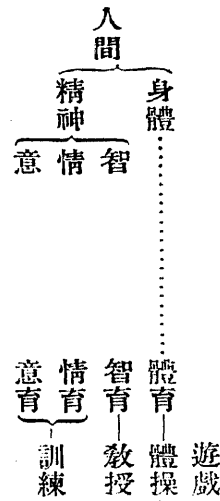
んで居る。

然らば訓練は研究の頂上に達して居るか。從來の訓練論は敬服し尊重す可き點は數々あるが極めて漠然として意義明白でない。學者とか思慮ある教育家がさうであるから一般の教育實際家の考は頗る不明な處がある。其上に近頃は新聞や雜誌に教育上の種々な新説が無難作に紹介せられ讀者亦之を無難作に受け容れるから其間にもとの學説とはとんちんかんのものに變化し、それが教育の實際にも幾分か影響して居る故に先づ吾等は德育を爲すに先ち德育の明瞭なる考を持たねばならぬ。

### 三、德育の意義

教育の目的を達しまする方法を工夫しますること  
を教育學の内で方法論と云ひます其方法は千種萬様でありますが之を心理學の見地からわけますと  
三つになります本來人間には身體と精神(智情意)  
とがあり之の各を充分に發達させますことを體育

智育・情育・意育と申します其内情育意育を總合して徳育とか訓育とか又は訓練と云ひます。

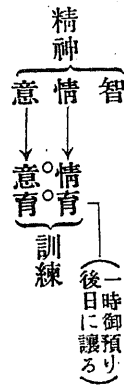


教授は主として直接に兒童の智識の上に作用し訓練は主として直接に兒童の意志の上に作用して教育の目的を達せんとするのである。而し之れは研究上考の上で別けて見るので實際は教授の際に訓練も行はれて居る。元來人の心を智・情意と云ふも實際は別れ別れに心にあるものではなく一つの統一體である。夫れ故に其一部に働きが起れば其影響は全部に擴がる度がちがう。教育者は眞に智識の教育をして居る時でも教師の態度。言語使用。表情等は兒童の感情を動かし知らず知らず兒童の情意に影響を與へて居る。智情意は水の如き

状態である水は分ければ酸素と水素とになるが實際は結合して居る。而して一點に波動が起れば全體に波及す。而し智情意を同時に考へると事柄複雑錯綜して到底物の道理事實の眞想を明白にし或は其事實を精密に分拆することが出来ぬから便宜上わけて考へるのであるこのとはくれぐれも御忘れなさる様に願ひたい。而して實行上には可成教授訓練體育を總合して同時に其目的が達せらるる様に調和統一することを要するのである殊に幼稚園では之れが大切で保育でなすことは何一つでもなすことが同時に體育にもなり智育にもなり訓練にもなる様な事が最も望ましい。保育の價値は此の度によつて定まる。

夫れ故に教授と訓練とは別物であると考へるは學究的に分析したる觀念を實地處辨の方に直に適用した誤見であるが而し其作用によつて智識の開發に効力多き場合を便宜上教授と云ひ情意の陶冶に効力大なる場合を訓育と云ふて差支へなし。

訓練と云はい感情、意志兩方面の陶冶を指示するのだが而し殊に意志を主とするのであるから茲には意育のみをお話をする之れも便宜上のことである。



意志の陶冶をお話するには意志とは何か。意志と感情、知識との關係を申上ねばならぬが之れは細かな心理學の講義になるので之れも後日に譲り茲では普通の意味に解し意志とは種々の慾望が起る其慾望の中より善良なるものを思慮撰擇し其撰擇したる慾望を實現するまでのものを意志と名づきたい。善良なるものを撰ぶ點で智識と關係がある其撰擇したるものを實行する時に於て身體精神の強き力を要する故に意志は如何なるものでもよいと云ふ譯でなく一定の意志でなければならぬ。一定の意志とは形式的抽象的に考へれば善良にし

て強勢なる然も永續性の意志でなければならぬ。之れは倫理學の理想である強力なる意志は餘り明白に倫理學では論じなだが併し之れは論じないだけで已に預定せられて居つた。偕自然の意志には其性質から見ても善良なるものあり不良なるものあり其強度にも強・中・弱の色々がある意志の續く長さから云ふも長短種々である。是等の内で教育上望ましいのは善良にして強く且つ耐久力のあるのである、教育に於ては斯の如き意志を發達させ他はおさへんとするのだから教育に絶對の自由などある筈はない。又善惡は大人からみて云ふので幼き兒童はよしあしを考へて居るものではなく又幼兒の意志に本來善惡のあるものでも無い。大人が一定の標準に照して善惡を別ち善を助長し惡を抑へんとするのである之れが教育であり又人の道である。

自然の道と人の道と異なる處はそこにある。春、夏、秋、冬と四季が變化し夏は暑く冬は寒いのは自

然である餓えて食を求め渴して水をのむのも自然である處が之を自然のうつるまゝに任せず夏は衣服を薄くし風通りをよくし冬は窓を閉ぢ爐を造るは人の道である。裸身で生れるのは天の道自然の道で之に衣服をまとゐる家を作りて生活するのは人の道だ。人の道を用ゐず自然に放任すれば田畑は荒れ雜草生ひ茂る。それでは人は生活出來ぬから米麥粟豆の生長を善として雜草の生長を惡として之を抜きとり焼きすてる之が人の道であると先哲も云ふたが教育も又之と同じだ。兒童の心には色々な萌芽無數に發芽し生長せんとして居る之れが自然の状態である無數の萌芽それ自身から云へば善惡は無い。田の中に稻や雜草がはえて居るが天當様が御覽なさつたらよしあしはない一樣に水と日光とを與へては生長を助けて居らるる蛙やどじやうが見ても稻と雜草とに善惡はない人間から云ふとそこに米は善でひえは惡となる之と同様に兒童の心に芽生えして居る色々な慾望活動には本

來は善惡はないが、而し兒童が從來生長して國民となり社界の生活をする時になつた時を考てみると其色々な萌芽の内國民生活―社會生活に善なるものと惡なるものがあるそこで善なるものを助長し惡なるものを抑へるこれが教育である。善なるものを助長する點に於て已に放任を許さず惡なるものを矯正する點で絶對の自由活動は許されないのである夫故に「絶對の自由」などは教育の範圍では全くなしと考へなければならぬ。

斯く論じて來ますと今の新しき教育の一大特徴は兒童の自由活動を重ずると云ふ點にあるが然らば之れは如何に考へたらよいか此の點に私の考には大なる矛盾がありはしないかと反問せらるゝであらう。勿論教育上の大改革は常に束縛の教育を破りて自由の天地を兒童に與へた處に存するので近世の大教育學者又は大教育家ルツソー、ペスタロッチ、フロエーベル、ヘルバルト皆其著しきもので其他瑞典のエレンケイ女史佛國のラコムブ氏な

ども之を大いに主張したモンテッソリー氏に至りても兒童の自由の尊重を強く認めたとのみならず之を實行した。併し氏も一種の自然主義に立ちながら最後は理想主義に陥ち入つて居る兒童の活動は一つの自然現象であるから我々は飽くまで此の活動を尊重し大人の見地からする干渉を避けねばならぬと云ふのは全く自然主義の考で而してかくするが兒童が社會に適應するに好都合なりと考へた處は理想主義である。かくの如く是等の大家にも思想上の不明な處がある。自由活動の尊重は主として智育體育の範圍の教育上の主義とす可きもので訓育上にまで之を適用するは其主義の運用を誤つて居る。而し良き意味の自由活動、人が何と云はうとも理性のなす處に突進すると云ふ自由活動は訓育上にも大切だが自由放任主義の自由活動は德育上には禁物だ。智育體育上の主義を訓育にも誤用するのは胃病の妙薬を眼病にも大効ありと思ふと同様である。この區別を明確に頭にもつてい

たゞきたい。そうしないと思想の混雜が起る教育上の主義と云ふも其主義の内には智育上のものあり訓育上のものがあり又體育の見地から定めた主義がある。

自由活動は智育の理想主義であつて體育にも大なる効能があるが訓育には直に適用が出来ぬ。自由活動を理想の様に思ひながら而し實際さうしてはどうも教育が出来ぬと考へらるゝのはこの區別を忘れて居らるゝからかも知れない。訓練上には自發活動主義の上に矯正主義を加味しなければならぬ寧ろ兩立して對當の地位を與てなければならぬ自由活動を尊重するモンテッソリー氏の如きも道徳的方面に於ては自由を制限することを同意して居る。例へば他人の妨害になる事良き作法に反する事等は禁止す可きとして居る。兎に角兒童は生長して社會の風俗習慣に従ひ憲法に従ひ法律に従ひ規則を守らなければならぬ。英國の如きはこの習慣がよく養はれ巡査の命令すら非常によく行

はれて居るそうである。之れは小き時からの習慣によるの外はない。小き時に善良なる習慣が出来れば善なることが極めて樂に出来る幼時の教育は實に其人の一生に非常な幸福を與へる。苦痛なくして善事が出来る様になる。而して一步あやまり良習慣が形成せられなかつた時は一生苦まなければならぬ。然らば善良なる意志とはどんなのであるかそれは全人類の幸福のために盡瘁せられたる意志である自分のためには人はつとめなくてよいかと云ふと全人類の幸福を謀ればそれが自分の幸福ともなる家内のものが一家のために働き一學校の職員が學校のために努力すればそれが自分の幸福になる今日の社會は不調和なところがあるから時には矛盾した事も起るが大體を見れば専心社會に盡す人は社會からも尊敬され愛せられて居る人の本性は自己のためにする力強い故に教育の力道徳の力を以て社會人類一般のために盡す様に手を加へなければならぬ。以上の論述により善良にし

て強力なる永續性の意志を鍛練することが訓練の目的であり教育の主要なる目的でなければならぬ而して之れは獨り私の考でなくして古來より今日に至る一貫したる教育上の理想であり目的である意力主義・意志鍛練主義最も勢力のある見識である。

#### 四、意志教育に關する古今

##### 學者の主張

今茲に一々人の名前を上げて其人の言説を申し上げるの必要もありませぬが上述の考につき諸君に自信を起してもらふためにすこしく辯明しなければならぬ。又他の考が出た時又他の異説が起つた時に御迷ひになることがある。知者は惑はずと云ふ處に進んでいないと實行上に確心が出来ない躊躇する様になる。

東西兩洋に於て意志教育の必要を鼓吹し又之を實行せるもの決して尠くありません之を西洋に見まするもスバルタ羅馬の教育は言はず近世英國の



教育につき十七世紀の末、即ち六百九十三年ロツク「千六百三十二年」一七〇四年」は六十一にして教育に關する思想を著し英國教育界に活動の指針を與へた其議論は苟も眞理にして正道と信せらるゝものは必ず之を實行せしめる必要を説き殊に實行に對しては往々異常の困難伴ひ來るを以て其困難を排し實行の先驅となる剛氣勇進の力を養成し加ふるに神を崇び人を敬するの心廉恥面目を重ずるの精神を涵養す可しと論述した殊に氏は幼時の教育の重要な事をたとへて幼兒の教育は大河の源泉に遡りて其水の流れに指を加へるが如き者だ其加へたる指の方向の僅かの差によりて末は萬里の相違を生ずると云ふて居る。之れは教育者の味ふ可き意味深き語であるロツクの考を受け續きたる人はトーマスアーノルドと云ふ人であるこの人はラクビーの學校長となりロツクの主張を實現し意志的實行的紳士を養成した今日英國人の性格は之らの教育家によりて造られたと云ふも恐くは過

言ではありますまい。この人は人の一生は三分の一思考し他の三分の二は實行に費す可きものと云つて居る獨逸に之を見ますもベスタロツチ、ヘルバルト皆同一の傾向を有して居る殊にフイヒテは其代表者なるが之れは後ですこし深く御話する。現代の學者ナトルプ氏の社會的教育學に見るも氏は一種の意力主義の教育を鼓吹し教育なる勵は教師と生徒の意志の關係から發生すると考へて居る。

ナトルプ氏は社會のために眞實に働き勇氣を以て一切の不正を排除する人物を養成するのが教育の目的なりとし之が養成は家庭學校社會の力を借らなければならぬと結論して居る。最近ではライ化學者オストソールド氏等も強烈なる意力ある人物を養成す可きも論じて居る。纏つて我國に之を觀るも我國過去の教育殊に鎌倉時代の教育は實に意力主義の絶頂を示して居る意力の鍛練は餘程爲し來つて居る明治以前の教育につきて何が最も成

功せりやと云はゞ意志教育である。大和魂は實に其結果である然るに數百年來培養せられて來た大和魂なる國民精神國民思想が明治の教育によりて如何になつたかと云はゞ遺憾ながら明治の教育は豫定の結果を收め得なかつた。善良にして強力なる意志教育に於て甚だ遺憾があつたと結論せざるを得ない。かかる結果は教育の罪のみではなく社會にもあるが教育が自覺的に此點に主力を注がな

んだことは事實である。大正の教育は此點に於て革新を起さなければならぬ。何故起さなければならぬかと云ふと之れは過去明治四十餘年間に於ける人心の變遷の現今の我國の狀態及び列國との關係から來るの。であるこの邊のことは私以上に最も適切にとかる人があるが話の順序として梗概を申上て置く。

\* \* \* \* \*

## 保育入門 (三)

### 三 幼稚園

#### 一

幼兒教育の第一の場所は、いふまでもなく家庭である。第一の幼兒教育者は、いふまでもなく母である。ところが、此の家庭が、事實の上に、自分だけでは幼兒の教育の完全を期し得ないと知る

時、そこに他の機關の必要が起る。幼稚園はすなはち此の補助機關の中の一つである。換言すれば、幼稚園は幼兒教育上家庭の補助をするものである。

而して、幼稚園が家庭にとりて必要となる意味、

倉橋惣三